

講義名	教養特講 (ヨーロッパ文化研究)/ヨーロッパ文化研究			授業形態	
担当教員	田村 弘行	開講期・曜日・時間	後期 木曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	1年生

主題と概要

ヨーロッパ圏を形成する社会の成り立ちや文化、人々の生活について、時に日本との間わりや日本の社会・文化への影響を、歴史的な経緯を踏まえながら総合的に学ぶことを目指す。主に、ギリシャ、イタリア、フランスの文化について概観する。

到達目標

- ・ギリシャ文化、イタリア文化、フランス文化の基本的な特徴がわかるようになる。
- ・ギリシャ文化、イタリア文化、フランス文化のいくつかの特徴を知り、国際的な感覚を持つようになる。

提出課題

ほぼ毎回授業の最後に簡単な小テスト・小レポートを課します。学んだ内容を要約し、気づいた点、意見・感想を書き加えて提出してもらいます。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバックの方法

課題を与えた授業後、1週間後に質問などへの回答および解説をします。

評価の基準

上記の提出物と出席、授業中の参加・取り組みなどを平常点として考慮し、合わせて評価します。毎回の提出課題を10点満点で評価、15回で合計150点満点で評価し、その結果を100点換算します。

履修にあたっての注意・助言他

- ・ 評価の基準で、合格点は、100点満点で80点ですから、150点満点では90点必要になります。授業1回欠席で10点がなくなります。授業を4回休めば、150点のうち40点がなくなります。つまり110点で90点を取らねばならないことになります。出来る限り欠席しないことが単位を取得する鍵になります。
- ・ 2、3行しか書かないようないい加減な提出物、取り書きの提出物、誤字・脱字が多いものは評価が低いのは当然です。提出物は、自分が学んだということをアピールする物であり、読み手へ敬意を忘れないようにしましょう。
- ・ 新聞、ネット情報、TV番組、映画などヨーロッパに関する情報について常にアンテナをはっておいただきたい。本学のドイツ語入門、フランス語入門なども受講することがぞましい。またNHKの語学講座などを視聴することもお勧めしたい。

教科書

.なし.

参考図書

その他

その都度、授業時あるいはRyuka Portalの講義連絡などでプリント配布します。

授業計画

- 1 ヨーロッパ文化研究概観
- 2 ギリシャについて
- 3 ギリシャ神話・ローマ神話とヨーロッパの美術について
- 4 キリスト教について
- 5 キリスト教とヨーロッパの美術1
- 6 キリスト教とヨーロッパの美術2
- 7 キリスト教とヨーロッパの美術3
- 8 印象派について
- 9 フランスの歴史と文化
- 10 フランスの12ヶ月
- 11 フランス料理の歴史
- 12 フランス料理に関する映画
- 13 パリの歴史
- 14 フランス映画について1
- 15 フランス映画について2

授業形態(アクティブ・ラーニング)

ア:PBL(課題解決型学習)	イ:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ:ディスカッション、ディベート	エ:グループワーク
オ:プレゼンテーション	カ:実習、フィールドワーク
キ:その他(A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

- ・ 授業で次回学習の予習をするので、そのテーマに関する情報を収集し予習しておくこと。・・・2時間程度
- ・ 授業後に学んだ内容に関連する書物、ネット情報などを収集し発展学習に努めること。・・・2時間程度

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

当科目は、グローバル展開科目として、海外の社会や文化をより広く深く学ぶための科目です。到達目標に記してあるように、ヨーロッパのいくつかの国の基本的な特徴を知ること、(ヨーロッパの)人と円滑なコミュニケーションをとることができる能力を育み、ヨーロッパのいくつかの国の文化の特徴を知ること、日本との違いを知り、創造力(新しい視点と豊かな発想)を持った人材の育成を目指します。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

RyukaPortalのレポート提出機能を利用し、小レポートを提出してもらう予定です。

実務経験の有無及び活用

備考

新型コロナウイルス感染症の状況によっては、シラバスの修正がある場合があります。